

令和 6 年 4 月 26 日

京 都 市

令和 5 年度の業務履行に対する評価及び意見について（まとめ）

令和 6 年 3 月 25 日開催の第 28 回京都市ごみ収集業務評価推進会議において、令和 5 年度に実施した「市民アンケート調査結果」及び「市民アンケート調査結果（個別評価）」などに基づき、各委員から令和 5 年度の業務履行に対する評価や意見をいただいた。

アンケート調査結果などから、これまでの様々な取組を前向きに評価していただいたが、今後の取組に対する意見は次のとおりであった。いただいた御意見を踏まえ、今後のごみ収集業務の改善に活かしていく。

第 28 回京都市ごみ収集業務評価推進会議の評価及び意見**意見 1：まち美化事務所の主体的な取組推進**

- 今年度から新たに開始した直営の個別評価では、これまでの全体評価では見えにくかった地域性なども含めた市民からの意見が垣間見えた。これらの意見を貴重なものと捉え、職員一人ひとりが改めて業務を見つめ直す契機とし、今後の市民サービスの向上に活かされたい。
- 資源物の持込量が増加する中、南部まち美化事務所の土日開放やエコまちステーションでの雑がみ等の回収強化など、市民ニーズに応える取組を展開されている点は評価できる。今後、市民への周知啓発をしっかりと行って多くの方に利用していただき、まち美化事務所やエコまちステーションが市民にとってより身近な存在となるよう努められたい。

意見 2：委託事業者との連携

- ごみ収集運搬業務については、令和 6 年度当初に委託化率 70%まで進むこととなる。これまで、委託化に伴うサービスの低下を招くことなく、市民生活に欠かすことのできないごみ収集運搬業務を安定的に実施してこられたことは評価できる。
- 委託事業者 10 社で構成する京都市生活環境事業協同組合が実施するスキル教育システムについては、京都市としても、取組状況を把握し必要な助言などを行うとともに、直営と委託事業者が連携し、質の高い収集業務の遂行に努められたい。

意見 3：プラスチック類の分別ルール徹底

- 令和 5 年 4 月から開始したプラスチック類の分別収集について、収集量は着実に増加しているが、まだまだ正しい分別方法を知らない市民が多くいるものと推測されることから、引き続き、わかりやすい周知に努められたい。
- リチウムイオン電池などの充電式電池や充電式電池使用製品が原因として疑われる火災が頻発していることについて、一度の火災により市民生活に多大な影響を及ぼす被害が生じかねないことから、引き続き、わかりやすい情報発信、積極的な注意喚起に努められたい。

- 令和5年10月からの大型ごみインターネット受付導入、持込ごみ事前予約システム導入及びキャッシュレス化について、導入後、大きなトラブルなく運用し、市民の利便性の向上や危険物の搬入防止などにつながっていることは評価できる。引き続き、利用者の声に耳を傾け、システム導入によるメリットを最大限活かせるよう取り組まれない。

意見4：災害時のごみ収集業務

- 能登半島地震での災害支援については、非常に大変な作業状況の中、国や被災自治体との調整の下、現場ニーズに臨機応変に対応しながら、避難所ごみや災害ごみの収集運搬に尽力されたことは評価できる。
- これまで実施してこられた災害支援での経験を活かし、本市での災害発生時には迅速かつ適切な対応が行えるよう、しっかりと準備されたい。